病気を持った患者の歯科治療

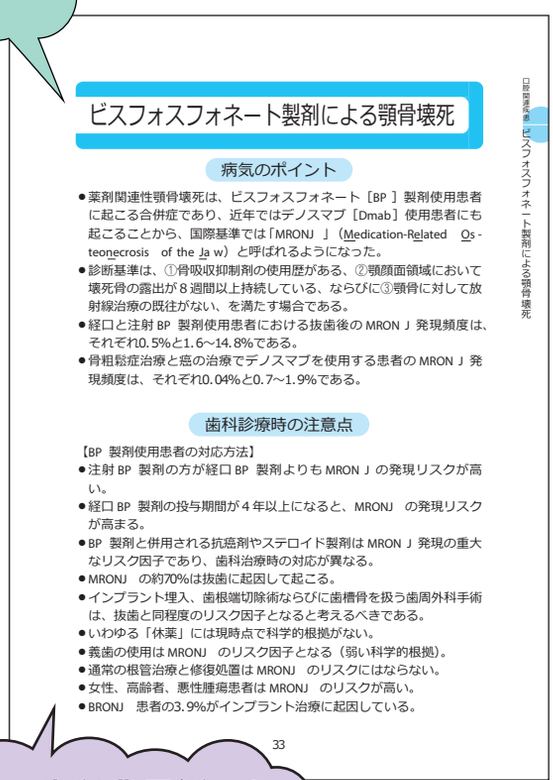
医科から歯科へのアドバイス（改訂第4版）

好評販売中

A5判　410頁　販売価格3,500円（送料込み）

医科歯科連携のための必携の一冊

2011年版は全国で6,300冊を普及



ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死

病気のポイント

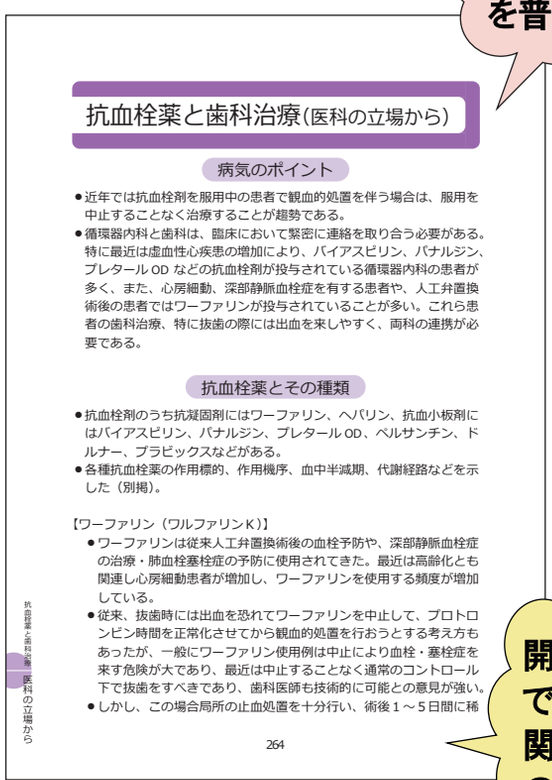
- 薬剤関連性顎骨壊死は、ビスフォスフォネート［BP］製剤使用患者に起こる合併症であり、近年ではデノスマブ［Dmab］使用患者にも起こることから、国際基準では「MRONJ」（Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw）と呼ばれるようになった。
- 診断基準は、①骨吸収抑制剤の使用歴がある、②顎顔面領域において壊死骨の露出が８週間以上持続している、ならびに③顎骨に対して放射線治療の既往がない、を満たす場合である。
- 経口と注射 BP 製剤使用患者における抜歯後の MRON J 発現頻度は、それぞれ0.5%と1.6~14.8%である。
- 骨粗鬆症治療と癌の治療でデノスマブを使用する患者の MRON J 発現頻度は、それぞれ0.04%と0.7~1.9%である。

歯科診療時の注意点

【BP 製剤使用患者の対応方法】

- 注射 BP 製剤の方が経口 BP 製剤よりも MRON J の発現リスクが高い。
- 経口 BP 製剤の投与期間が４年以上になると、MRONJ の発現リスクが高まる。
- BP 製剤と併用される抗癌剤やステロイド製剤は MRON J 発現の重大なリスク因子であり、歯科治療時の対応が異なる。
- MRONJ の約70%は抜歯に起因して起こる。
- インプラント埋入、歯根端切除術ならびに歯槽骨を扱う歯周外科手術は、抜歯と同程度のリスク因子となると考えるべきである。
- いわゆる「休薬」には現時点で科学的根拠がない。
- 義歯の使用は MRONJ のリスク因子となる（弱い科学的根拠）。
- 通常の根管治療と修復処置は MRONJ のリスクにはならない。
- 女性、高齢者、悪性腫瘍患者は MRONJ のリスクが高い。
- BRONJ 患者の3.9%がインプラント治療に起因している。

33



抗血栓薬と歯科治療（医科の立場から）

病気のポイント

- 近年では抗血栓剤を服用中の患者で観血的処置を伴う場合は、服用を中止することなく治療することが趨勢である。
- 循環器内科と歯科は、臨床において緊密に連絡を取り合う必要がある。特に最近は虚血性心疾患の増加により、バイアスピリン、パナルジン、プレタール OD などの抗血栓剤が投与されている循環器内科の患者が多く、また、心房細動、深部静脈血栓症を有する患者や、人工弁置換術後の患者ではワーファリンが投与されていることが多い。これら患者の歯科治療、特に抜歯の際には出血を来しやすく、両科の連携が必要である。

抗血栓薬とその種類

- 抗血栓剤のうち抗凝固剤にはワーファリン、ヘパリン、抗血小板剤にはバイアスピリン、パナルジン、プレタール OD、ベルサンチン、ドルナー、プラビックスなどがある。
- 各種抗血栓薬の作用標的、作用機序、血中半減期、代謝経路などを示した（別掲）。

【ワーファリン（ワルファリンK）】

- ワーファリンは従来人工弁置換術後の血栓予防や、深部静脈血栓症の治療・肺血栓塞栓症の予防に使用されてきた。最近は高齢化とも関連し心房細動患者が増加し、ワーファリンを使用する頻度が増加している。
- 従来、抜歯時には出血を恐れてワーファリンを中止して、プロトロンビン時間を正常化させてから観血的処置を行おうとする考え方もあったが、一般にワーファリン使用例は中止により血栓・塞栓症を来す危険が大であり、最近は中止することなく通常のコントロール下で抜歯をすべきであり、歯科医師も技術的に可能との意見が強い。
- しかし、この場合局所の止血処置を十分行い、術後１～５日間に稀

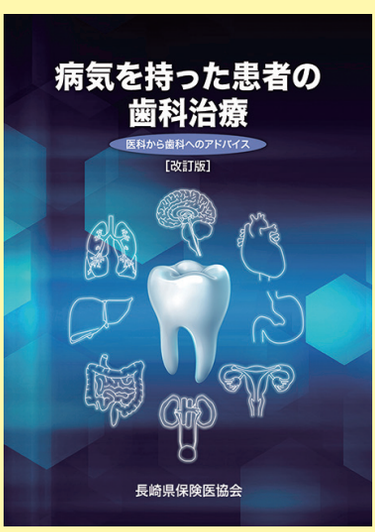
264

これまで歯科業界紙にも紹介された話題の一冊

開業医だけでなく大学関係者からの注文も相次ぐ

★主な特徴★

- 1998年版は全国で約7,000部、2005年版は6,000部、2011年版は6,300部（ＣＤ版200枚）利用された「病気を持った患者の歯科治療」の第４版
- 執筆は会員又は大学病院等の医師・歯科医師を中心に77人が担当
- 129疾患が収録され、第３版から新たに12疾患を追加。従来の内容も大幅にリメイク（掲載テーマは1998年版50、2005年版86、2011年版117）
- スタイルは原則的に、①病気のポイント　②歯科診療時の注意点　③常用薬　④投薬時の注意点　⑤歯科治療時に予測される緊急事態と対応法　⑥最近のトピックスの項目に収載
- 薬剤使用上の注意や副作用は一覧表にし、医学略語や索引も収載するなど使いやすいスタイル
- Ａ５判のコンパクトサイズで気軽にチェアサイドで活用できる
- フルカラー印刷で図表や写真を随所に掲載し、見やすく工夫
- 周術期口腔管理―医科歯科連携について、診療情報提供書の見本や歯科医師に必要な臨床検査データの読み方も掲載するなど、医科歯科連携に役立つ１冊



ご注文は大阪府歯科保険医協会まで（裏面参照）

発行：長崎県保険医協会

★掲載されている疾患等の一覧★

1．口腔関連疾患
（1）口臭
（2）口内炎（医科の立場から）
（3）舌痛症
（4）顎関節症
（5）摂食嚥下障害（医科の立場から）
（6）摂食嚥下障害（歯科の立場から）
（7）口腔乾燥症
（8）口腔粘膜に所見を有する疾患
（9）ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死
（10）喫煙と歯周病

2．感染症
（1）インフルエンザ
（2）かぜ症候群
（3）肺結核
（4）エイズ
（5）性感染症（エイズを除く）
（6）新興感染症

3．呼吸器の病気
（1）気管支喘息
（2）慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）
（3）慢性呼吸不全
（4）慢性咳嗽
（5）睡眠時無呼吸症候群
（6）間質性肺炎
（7）誤嚥性肺炎

4．循環器の病気
（1）高血圧症（低血圧を含む）
（2）狭心症
（3）心筋梗塞
（4）冠動脈インターベンション術後の患者
（5）心不全
（6）心筋症
（7）不整脈
（8）ペースメーカー植え込み患者
（9）感染性心内膜炎
（10）心臓手術後の患者
（11）静脈血栓塞栓症
（12）末梢血管手術後の患者
（13）下肢静脈瘤

5．消化器の病気
（1）逆流性食道炎
（2）胃・十二指腸潰瘍
（3）クローン病・潰瘍性大腸炎
（4）慢性肝炎
（5）肝硬変症
（6）ＮＡＳＨ
（7）消化器癌術後の患者

6．腎臓・泌尿器の病気
（1）慢性腎臓病
（2）人工透析の患者
（3）過活動膀胱・頻尿・尿失禁
（4）前立腺肥大症

7．血液の病気
（1）貧血を主徴とする疾患
（2）出血傾向を主徴とする疾患
（3）貧血と出血傾向が同時に認められる疾患

8．代謝・内分泌の病気
（1）脂質異常症
（2）糖尿病
（3）痛風
（4）甲状腺機能亢進症
（5）甲状腺機能低下症
（6）急性・亜急性甲状腺炎
（7）クッシング症候群
（8）副腎皮質機能低下症

9．膠原病および類似疾患
（1）膠原病
（2）関節リウマチ
（3）シェーグレン症候群

10．脳神経外科および神経内科の病気
（1）脳血管障害
（2）三叉神経痛
（3）てんかん
（4）パーキンソン病
（5）ジスキネジア
（6）頭痛

11．精神科・心療内科の病気
（1）うつ病
（2）自律神経失調症
（3）認知症
（4）パニック障害
（5）不眠症

12．小児の病気
（1）小児の気管支喘息およびアレルギー疾患
（2）小児の感染症
（3）自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害
（4）注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ＡＤ/ＨＤ）
（5）重症心身障害児の歯科治療
（6）歯科医療と児童虐待

13．整形外科の病気
（1）頸椎の疾患
（2）腰椎の疾患
（3）関節の疾患
（4）骨粗鬆症

14．眼科の病気
（1）緑内障
（2）白内障
（3）加齢黄斑変性
（4）糖尿病網膜症

15．耳鼻咽喉科の病気
（1）アレルギー性鼻炎
（2）副鼻腔炎
（3）めまいを伴う内耳疾患
（4）扁桃肥大（アデノイドを含む）・急性扁桃炎

16．産科・婦人科の病気
（1）妊娠（妊婦・授乳中に対する留意）
（2）更年期障害
（3）生理不順治療中の患者への対応

17．皮膚科の病気
（1）単純ヘルペス・帯状疱疹
（2）金属アレルギー
（3）掌蹠膿疱症
（4）じんま疹
（5）アトピー性皮膚炎

18．抗血栓薬と歯科治療
（1）医科の立場から
（2）歯科の立場から

19．抗癌剤・抗アレルギー剤と歯科治療
（1）抗癌剤・免疫抑制剤服用の患者
（2）抗アレルギー剤・抗ヒスタミン剤服用患者の歯科治療

20．救急時の処置と対応
（1）誤嚥、気管内異物
（2）心肺蘇生（ＡＥＤの使用）
（3）血管迷走神経反射
（4）歯科局所麻酔時の注意点
（5）失神
（6）歯科治療時に予測される緊急事態と対応法
（7）針刺し事故
（8）エピペン

21．在宅医療
（1）在宅要介護者の留意点
（2）在宅歯科診療におけるポイント
（3）在宅緩和ケア
―麻薬鎮痛剤使用患者への留意点

22．放射線の人体に及ぼす影響

23．薬剤使用上の注意一覧表
（1）歯科で使用される非ステロイド性消炎鎮痛剤（ＮＳＡＩＤｓ）
（2）止血剤及び添加血管収縮剤
（3）歯科治療で使用される局所麻酔剤
（4）歯科口腔外科領域で使用できる経口抗菌剤

24．起こしやすい薬剤の副作用
（1）注意すべき薬剤の相互作用と副作用
（2）味覚障害を起こしやすい疾患と薬剤
（3）歯肉増殖を起こしやすい疾患と薬剤
（4）口腔乾燥を起こす可能性のある薬剤

25．臨床検査データの読み方と診療情報提供
（1）歯科医師に必要な臨床情報および検査データの読み方
（2）診療情報提供書記載のポイント
（3）診療情報提供書見本
（4）周術期口腔機能管理
―医科と歯科の連携について―
（5）医学略語一覧

【申込み方法】

①本注文用紙に必要事項を記入の上、ＦＡＸで注文
②必要事項を記入の上、メールで注文

『病気を持った患者の歯科治療』改訂第４版　ＦＡＸ注文用紙

ＦＡＸ番号 06−6568−0564

住　所	（〒　　）
医療機関名	
お名前	
電　話	
冊　数	

取扱：大阪府歯科保険医協会
〒556-0021　大阪市浪速区幸町1-2-33　保険医会館内３F
電話06-6568-7731　　FAX06-6568-0564
Ｅメール　osk-hok@doc-net.or.jp